

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0070301786		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「オークヒルズ」B棟		
所在地	福島県郡山市八山田西四丁目12番地		
自己評価作成日	令和3年8月24日	評価結果市町村受理日	令和3年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成15年にオープンした全面バリアフリーのグループホームである。新興住宅に位置し、平屋建て2ユニットでお客様同士の交流も盛んなグループホームである。
 また、ホーム内は家庭的な雰囲気、お客様同士が顔馴染みとなり楽しく交流できるよう支援している。個別ケアにも重点を置いており、職員が一丸となってお客様の夢や希望を叶えつつ、それぞれの想いを形にし、日々の楽しみとなるよう提供している。例年であれば、地域行事への参加も積極的に行っているが、コロナ禍の影響もあり今年度は自粛している。
 ・終末期における看取り対応も行っており、住み慣れた場所で最後まで安心して暮らせる環境が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員である事を意識した事業所独自の理念を作成し、施設内に掲示している。地域の方や馴染みの方と交流が図れるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のつながりとして自治会に加入し、回覧板等で地域の情報を得ている、コロナ禍の影響により、地域行事への参加は見合わせているが地域との繋がりが保てるよう施設の様子をブログで発信している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば実習生や研修等の受け入れ行っているが、コロナ禍の影響で今年度は自粛している。関係機関や地域の情報収集に努めコロナ禍後に、地域への知識や技術の伝達ができるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響により、運営推進会議は開催自粛しているが、事業所の取組等を記載した文書を郵送し、推進委員との情報共有に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と連絡をとり、福ひろば等へ事業所情報等アップロードし情報の共有と活用に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、年間計画に沿って身体拘束廃止へ向けた取り組み、職員への教育を行っている。防犯上の観点から夜間は玄関施錠しているが、日中は開放している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法や権利擁護について勉強会を行っており、ご利用者様本位の介護サービスが提供できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者からご家族様へ説明対応行っている。制度利用のご希望があれば、速やかに関係機関と連携が図れるよう個々に学習し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	責任者または介護支援専門員が説明行っている。ご説明させて頂く際は、不明点や不安点等を聞き取りし、十分な理解・納得が頂けるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望を電話等でいつでも管理者・職員へお伝え頂けるよう対応している。また、お客様アンケートという形でご意見・ご要望を聞き取りし、集計結果・改善対応を施設内に掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行っており、会議の場で職員の意見や提案を聞きながら事業運営行っている。必要時は法人上層部へ相談し、職員が働きやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の職能等級に準じて、各自が目標とやりがい、責任を持ち向上心を持って就労できるような環境が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響もあり、外部の研修へは参加できていないが、職員の経験年数・力量に応じて階層別研修をリモートで行っている。また、法人内で実務者養成研修を開催しており介護福祉士資格取得を助成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響もあり、積極的な他法人介護施設との交流機会は持っていない。同法人の事業所とは内部研修や勉強会をリモートで行いながら、意見の交換ができています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたってはご本人様のニーズをケアプランに反映し、不安なく生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始にあたってはご本人様、ご家族様のニーズを照らし合わせケアプランに反映する事でご家族様と良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にあたっては、ご本人様の状態、状況を確認し、介護支援専門員が中心となりケアカンファレンスを行った上でケアプラン作成している。必要に応じ、医療サービス等の利用もご提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩、大切な方という認識を持ち、グループホームでの共同生活がご本人様にとって自立したものとなるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ広報誌を毎月お届けし、ご利用者様の近況をご報告させて頂いている。また、リモートを活用した面会を行い、家族の繋がりを大切にしながら共にご本人様を支えていく関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響もあり、馴染みの場所への外出等は行えていないが、電話やリモートでの面会をお勧めし大切な家族、人との関係が途切れないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様個々の性格等を日常生活の様子から把握し、一人一人が楽しく生活できるよう配慮している。関係性に変化が見られた際は、席配置の環境を変える等柔軟に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了となった際でも、お手紙やお写真をご家族様へお送りし、ホームでの思い出が残るよう努めている。入院、退居となった際でも不安な点等は遠慮することなく事業所に問い合わせ頂けるよう対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にお客様会議を開催しており、ご利用者様のご希望を伺う機会を設けている。意向の把握が困難な場合でも、日頃の様子からご希望をくみ取り支援内容に反映できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや以前のご利用者様の情報を元に出来る限り今まで通りの暮らしができるよう職員間で情報を共有し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活やペースを尊重し、ひとり一人に合わせたペースで過ごして頂いている。心身の状態に関して申し送りを行い、職員間で情報共有し状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の状態を把握した上で、ご家族様へご要望やご意見を伺い介護支援専門員が中心となりケアカンファレンス行っている。ケアカンファレンスで話し合った内容をケアプランに反映する事で、その方の現状に合わせた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテや生活記録表にご本人の様子や言葉等を都度残し活用している。情報を職員間で共有することでご利用者様の状態に合わせた対応を行い、ケアカンファレンスで意見を出し介護計画の見直し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的なケアプランの見直しにより、その時々々のニーズに柔軟に対応した介護計画を作成している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり、地域行事への参加はほとんどできていないが、高齢者作品展への出品を継続している。また、市広報誌や回覧板をご利用者様と一緒に確認し、地域の情報収集できる機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、ご家族様が受診対応の際は日ごろの状態を細かくお伝えし、職員対応の際は内容を受診記録に残し、ご家族様へ報告している。重度化等により受診対応が難しくなっているお客様へは訪問診療への移行お勧めしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が訪問の際、受診の報告や特変時の申し送りを行っている。また、急変時に備え24時間の看護師への連絡体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院医療連携室のソーシャルワーカーと連絡を取り合い、都度情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の対応について意向確認を行っている。また、状態変化時には改めて意向を確認した上でご家族様と話し合いを行い、今後の対応、方向性を決めご本人、ご家族様双方が納得する最後を迎えられる様チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時の対応マニュアルが整備されており、勉強会も開催している。他に行方不明時の対応についてもマニュアル化されており有事の際に適切に行動できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、様々な想定で避難訓練を実施しており、全職員が安全な避難方法を理解している。また、消防に協力要請し、アドバイスを頂いている。コロナ禍の影響もあり、地域の方に避難訓練に参加して頂く事はできていないが、町内会長様に緊急連絡網に入って頂きご協力頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇について勉強会を行い、ご利用者様ひとりおひとり尊重し、声かけや言葉遣いに配慮している。馴染みの関係になっても、決して馴れ馴れしい言葉遣いをしないよう全職員が理解できている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が難しいご利用者様でもご希望が伺えるよう働きかけている。誕生会やイベントの際は、好きなものを提供したりご希望が叶えられるようお客様会議にてご意見伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームはその方の”家”である事を全職員が理解し、離臥床の時間等はお客様の生活歴等考慮しご本人様のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望により訪問理美容を利用する為調整したり、更衣の際、ご自分で衣類を選んでいただいている。また、起床時の整容をご自分で行われている方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の手伝いや、おやつ作りをご利用者様と一緒にやっている。行事の際は、一緒にお食事をとり会食が楽しいものとなるよう声かけを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チルド食を取り入れ、栄養バランスのとれた食事を提供している。主治医に相談し必要な水分量の把握に努め、必要に応じて水分カウントを実施している。ご利用者様ひとり一人の嗜好に合わせ、代替の副食提供する等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせ口腔ケアを行っている。また、歯科医院と提携し月に1度口腔衛生について勉強会を行い、知識と技術の習得に努めお客様の口腔ケアに活かしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人一人の状態に合わせ、排泄の介助を行っている。尿意のない方や、オムツを使用されている方にも日中のトイレ誘導を行う事でトイレでの排泄の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が促せるよう、個別に腹部マッサージや体幹を捻る運動実施している。また、必要に応じてヨーグルトの提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はご本人様の希望に合わせて実施している。個別に湯温を調整したり、入浴剤を入れ楽しいものとなるよう支援している。入浴を好まれない方であっても、声かけを工夫したりシャワー浴での対応等清潔が保てるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日毎の個々の状況に応じて、午睡の時間を設けたり、生活習慣に合わせて居室内環境を考えリラックスして休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より十分に説明を受け、薬剤情報を保管している。薬剤師にも目的、量、副作用について確認し受診記録、電子カルテに記録を残している。与薬時も誤薬のないようダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味嗜好を把握し、好まれる軽作業や趣味活動を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響もあり、今年度は外出がほとんどできていない。国難である事をご本人様、ご家族様へご説明し、ご理解頂いている。代替として施設行事の際は、ご利用者様のご希望を伺った上で郷土料理等をお出して気分を味わえるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方はおらず、必要に応じ、施設立替の体制をとり、ご家族様に確認しお金を使える環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身内の方やご友人から電話があった際は気兼ねなくお話ししていただいている。また、電話の希望が聞かれた際も積極的にお話ししていただいている。他、ご希望があればリモートでの面会も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に季節に合わせた飾りつけをしたり、行事の写真を掲示して見ていただけるようにしている。また、施設内は温度、湿度管理されており居心地の良い空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたり、和室にて馴染みの方同士で腰かけて話をしたり、ソファでテレビを観たりと思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅で長年愛用されてきた品々を持ってきていただき使用して頂いている。馴染みの物がある事で、安心して居心地の良い環境となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合わせ居室内含め環境設定し、安全かつ自立した生活が送れるよう個別に介助方法の工夫行っている。		